

# 色彩の感情効果を表示する色彩感情空間について

—広島文化女子短大生の場合—

高 橋 房 子

## The Color Emotional Space Showing the Color Emotional Effect

By Fusako TAKAHASHI

### はじめに

造形に対して色のもつ役割が、どれだけ大切であるかは言うまでもない。形・材質・色彩があって Design されたと言われるが、一番に眼に入ってくるのが色彩である。そして色の使い方からいろいろな色彩感情効果がみられる。色彩から受ける印象判断は視覚によるものであり、表現することばも数多くある。色彩の印象調査に使われる尺度の例は表1のようである。

なかでも色彩から受ける温度感はいくつものものに利用されているのではなかろうか。我々の生活を見廻してみるのは夏期には、涼しさを呼ぶ色が好まれ、反対に冬期には、暖かさを感じさせてくれる色が多く用いられている。また映画とか演劇の場面も喜びを感じさせる色は明るく暖かく、悲しみを表現する色は、冷たく暗い色が用いられている。色の温度感には色の三属性との関係が深い。しかし日常我々の眼に入ってくる色彩は余りにも多く繁雑である。今日のように多彩の生活の中では量感とか質感によって、また周囲およびバックの色彩によって随分目立ち方が違ってくる。

そこで今回は、被服造形を学んでいる学生を対象に色彩に対して、いただいているイメージを客観的な方法で調査したものを、その他の調査と比較検討して報告する。

表1 色彩の印象調査に使われる尺度の例\*

あ	っ	さ	り	し	た	—	く		ど		い
強							い	—	弱		い
重							い	—	軽		い
派		手					な	—	地	味	な
美		し					い	—	み	に	く
安	定	し	た	—	不	安	定				な
明		る					い	—	暗		い
や	わ	ら	か	い	—	か			た		い
す		き					な	—	き	ら	い
あ	た	た	か	い	—	つ			め	た	い
自		然					な	—	不	自	然
陽		気					な	—	陰	気	な
調		和	し	た	—	不	調		和		な
動		的					な	—	静	的	な

\* 千々岩英彰著 色彩学 54頁表4

調査方法とその結果

調査場所 本学被服構成I実習室で左右から自然の光が入り明るい部屋である。

調査年月日 昭和51年9月中旬午前中

調査対象 被服学科服飾コースの学生 95名

先づ JIS に示されている medium gray (N 5.5) をバックにして、180 mm×250 mm の色研ワーク・トーン66のうち今回は10種類を選び一枚づつ見せて調査用紙にしるしをして貰った。なお前回は66色を調査済みである。

今回の10色について色名分析をしてみると次の表2のようになる。調査の場合には、わかり易く色研ワークの呼び名にした。

調査用紙は次の通りである。

表3 色彩に対するイメージ調査用紙

氏名	
1 色名 あたたかい やや中間 や やつめたい 強い 弱い 美しい みにくい	6
2	7
3	8
4	9
5	10

表4 51年度調査結果尺度値

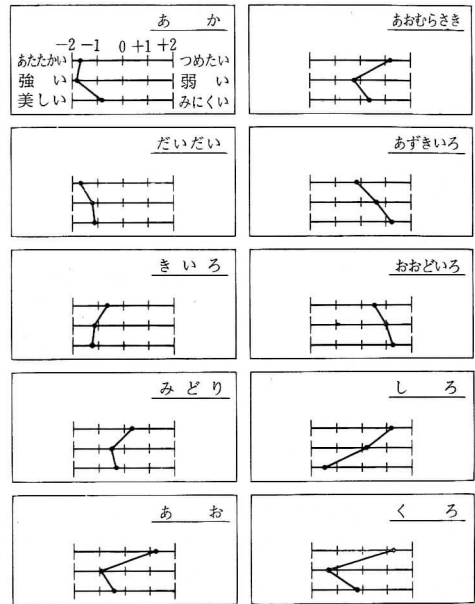
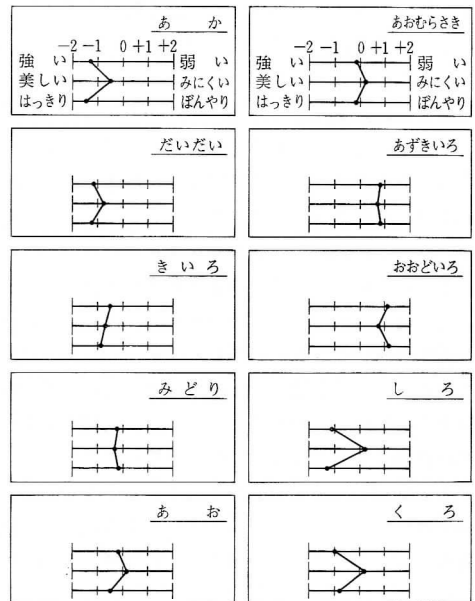


表5 48年度調査結果尺度値



\* 表2は39頁にあります。

尺度値を求めた結果は表4に示す通りである。あか(4 R 4.5/14)はあたたかく、強く、やや美しいという結果となっている。だいたい(10 R 5.5/14)も同じようである。きいろ(5 Y 8.0/13.5)は、ややあたたかい、やや強い、やや美しいとなっている。みどり(4 G 5.5/10.5)は、あたたかくもつめたくもなく、強いも美しいもややというより少しといった程度になっている。あお(3 P B 3.5/13)、あおむらさき(9 P B 3.5/13)共に寒色という先入観があつてかつめたい方に寄っている。そうして、あお(3 P B 3.5/13)は、やや強く、少々美しく見えるようである。あおむらさき(9 P B 3.5/13)は、強いも美しいも中間に近い。あづきいろ(4 R 5.0/7.5)は、あたたかさは中間で少々弱く、ややみにくいとなっている。

このあずきいろ・あおむらさき・おおどいろは、'76秋冬の流行色として発表されていたので加えたものであるが、ただ色紙でみるのでは感じかたがちがうのであろうか。おおどいろ(8 Y R 6.0/7.5)もあずきいろ(4 R 5.0/7.5)に比べて少々十方向に寄っている。

しろ(N 9.5)とくろ(N 1.0)とは同じようにややつめたく、しろは強くも弱くもなく美しいようであるのにくろは、強く美しさは中間となっている。このような結果は、色から受ける印象のうちあたたかさ、強さ美しさという概念は相互関係はあまりなく、代表的な印象であることは先輩の方々の研究で知られているところである。

そこで次に示す図1、図2、図3のように、たて軸よこ軸にそれぞれをおき平面で示してみる。昭和48年度に全色66で調査したものの中から今回と同じ10色を同じように尺度値を出してみると図5、図6、図7のような結果となる。このうち図5と図2を比較してみると、しろの位置が反対方向になっている他、大した動きは見られない。

また図4、図8はそれぞれ図1から図3と図5から図7をまとめたものである。

これが集団を対象にして、単色をみせて得た調査結果であり色のイメージ空間であるといえる。

この図4と図8をみてわかるようにV2、V4、V8、d2、d6には大差はないと思われるが、その他の色には多少の動きがみられる。

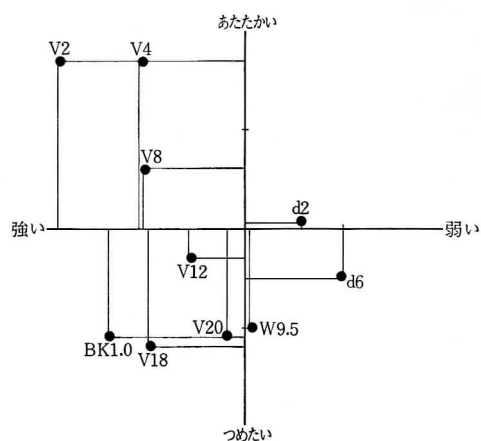


図1 イメージにおける色の位置

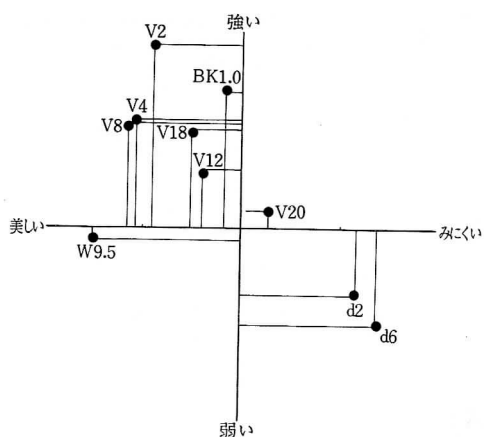


図2 イメージにおける色の位置

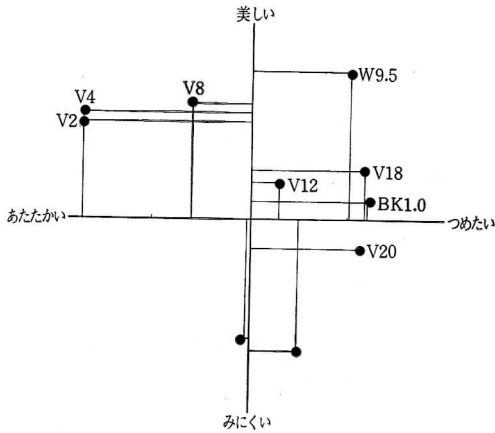


図3 イメージにおける色の位置

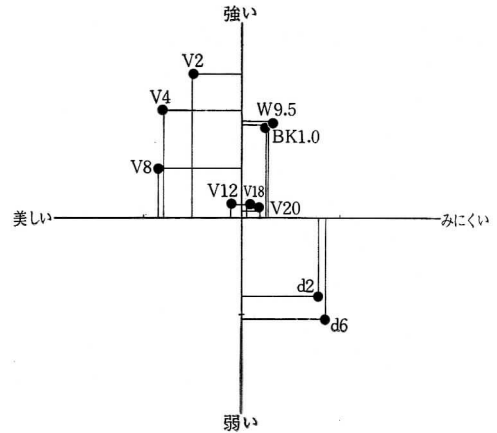


図5 イメージにおける色の位置

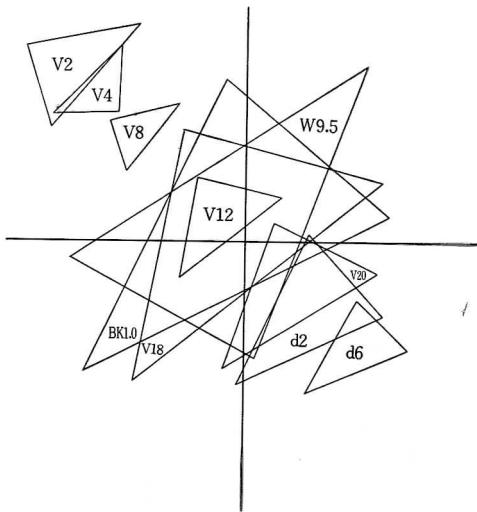


図4 色のイメージ立体空間

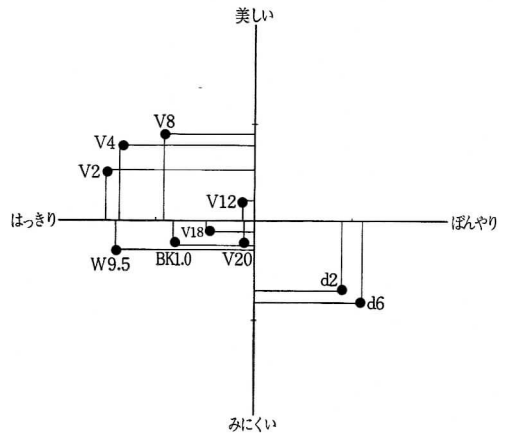


図6 イメージにおける色の位置

以上のように色彩感情空間の示す通り前回と今回の調査によって知ることができた。

そこで水谷氏の音調色彩調査(表6)に示された1位のア、イ、ウ、エ、オの色彩を今回調査したうちの強い—弱い、美しい—みにくいの平面図表に当てはめてみると図9のような結果がみられる。

つまりアとかエとかは、強いやや美しいのイメージとあうあか(4 R 4.5/14)となり、イとかウは、やや強い、やや美しいきいろ(5 Y 8.0/13.5)といえる。またあお(3 P B 3.5/13)は、やや強く少々美しいイメージでオの音となっている。

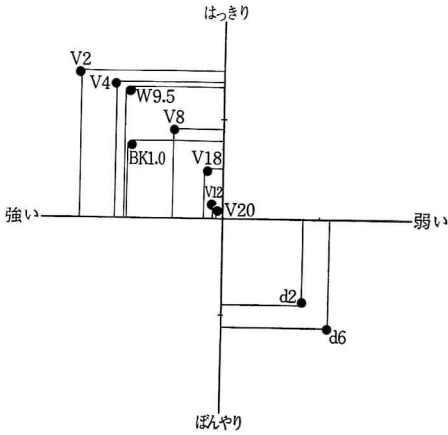


図7 イメージにおける色の位置

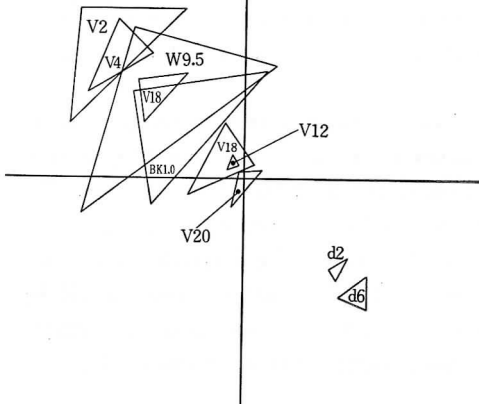


図8 色のイメージの立体空間

ま と め

色彩感情効果を表示する色彩感情空間を知るためにSD法により印象調査をした。

その結果は、前回66色においては、強い—弱い、美しい—みにくい、はっきり—ぼんやりに対してであり、今回は前回の中から10色を選び出したものをあたたかい—つめたい、強い—弱い、美しい—みにくいといった3種に対してのもので大体似かよったものであった。

ただ色紙を見ての印象調査であるためこのような結果であったものと思われるが、これが材質感とか量感が加わった布地や、それに形が加ってくると平面のものとの立体のものとの見た眼も違い全ったく異ったものとなるであろう。

このような単色の印象には、その人のもっているいろいろな要素も加わってくるものと思われる。しかし色彩感情空間が大きければそれだけ幅広いイメージであり、小さければ小さいほど誰もが同じイメージをもっていることになる。代表的な10色の位置がわかった。被服造形においては、単色ばかり扱うわけではないが、先づ基本となる単色の数々を十分に把握したならばベースカラー、アソートカラー、アクセントカラーを考える上での下地となるであろう。

表6 音調色彩調査(アイウエオの母音イメージ)—JIS 記号による色相使用率%上位5位までの集計

年度 順位	ア		イ		ウ		エ		オ	
	S 42	S 46	S 42	S 46	S 42	S 46	S 42	S 46	S 42	S 46
1	R	R	Y	Y	Y	YR	R	R	B	PB
2	RP	PB	B	YR	R	B	GY	Y	PB	NI
3	YR	YR	BG	GY	B	PB	YR	YR	R	YR
4	B	B	YR	R	YR	Y	Y	GY	YR	R
5	Y	RP	R	PB	GY	R	B	PB	BG	B

武蔵野美術大学教授水谷元彦氏資料による

\* 図9は41頁にあります。

## 参 考 文 献

千々岩英彰著 色彩学 武蔵野美術大学

昭和48年1月15日発行

水谷 元彦編 グラフィックデザインアイデア 鳳山社

昭和49年7月15日発行

色 名 事 典 日本色彩研究所発行

P. C. C. S. 166色 //

インデックス











## Summary

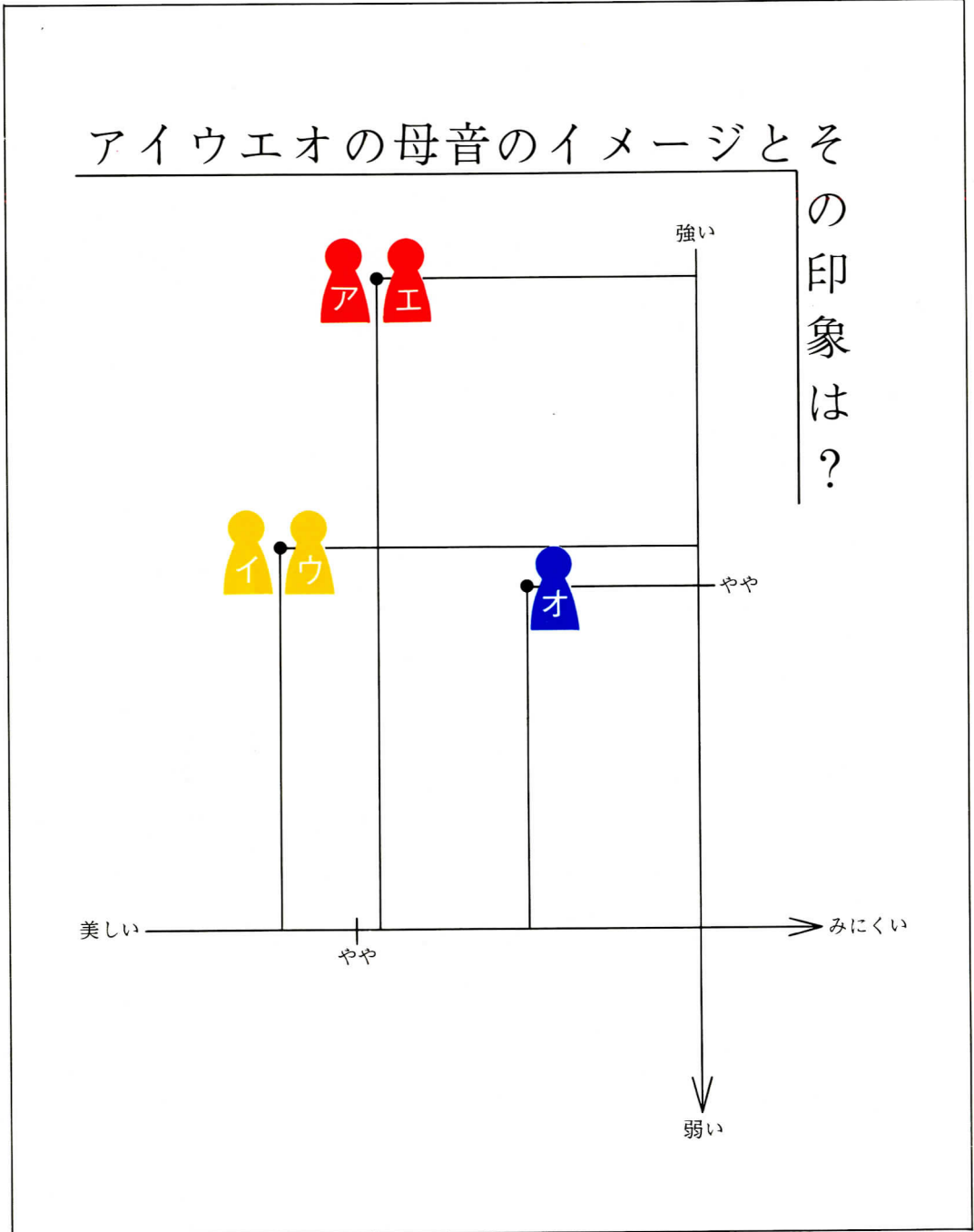
In order to investigate the color emotional space showing the color emotional effect I used SD method.

In the former investigations 66 colors—strong—weak, beautiful—ugly and clear—obscure —were used. This time I selected 3 degrees of 10 colors— warm—cold, strong—weak and beautiful—ugly. The result was nearly the same.

As the bases were the impressions using square pieces of colored papers they were nearly the same, I presume. But if I used pieces of cloth or things of different shapes the result would have been quite different influenced by the material, the size of the samples and the things plane or solid. For the impression of the simple color the experience of an individual person would be included. The bigger the color emotional space is, the broader would be the image. If the samples were small everyone would have nearly the same image. Thus the positions of representative 10 colors would be made clear. In clothes modeling we do not use simple hues only, but if you recognize basic simple hues well you will have basic ideas to consider the basic color, assorted color or accented color.

表2 色名と記号

トーン記号	系統色名	P.C.C.S記号	JIS記号	JIS一般色名	色研ワーク	色名
V2	vivid red	2R-4.5-9s	4.R4.5/14	さえた赤		あか
V4	vivid reddish orange	4.rO-5.5-9s	10.R5.5/14	さえた黄味の赤		だいたい
V8	vivid yellow	8.Y-8.0-9s	5.Y8.0/13.5	さえた黄		きいろ
V12	vivid green	12.G-5.5-9s	4.G5.5/10.5	さえた緑		みどり
V18	vivid blue	18.B-3.5-9s	3.PB3.5/13	さえた青		あお
V20	vivid violet	20.V-3.5-9s	9.PB3.5/13	さえた青紫		あおむらさき
d2	dull red	2.R-5.0-6s	4.R5.0/7.5	にぶい赤		あずきいろ
d6	light yellowish brown	6.yO-6.0-6s	8.YR6.0-7.5	にぶい黄赤		おおどいろ
W9.5	white	n-9.5	n9.5	白		しろ
Bk1.0	black	n-1.0	n1.0	黒		くろ



筆者 Designによる